

## 第1回 雨天時浸入水対策ガイドライン策定検討委員会 議事要旨

令和元年6月27日(木) 14:00~16:00

公益財団法人日本下水道新技術機構

(雨天時浸入水の現状について)

- ・対策をやっている自治体は多いのか。
- ・維持管理上の問題意識がある自治体のうち、実際に調査を実施している自治体は3~4割で、それ以外についてはまだ取り組んでいないと認識している。

(地方公共団体の取組について)

- ・流域下水道では雨天時の水量を含めて関係市町村から負担金を徴収しているのか。
- ・関係市町村の有収水量の割合に応じ、不明水分の処理費用も含めて負担金を頂いている。市町村が不明水対策を実施し水量を減らしても、処理場における処理水量の低減効果は平均されてしまうこととなるため、不明水対策を実施した市町村にどのようにインセンティブをつけるかが今後の課題である。

(雨天時浸入水ガイドラインの構成案について)

- ・地震や老朽化により、常時浸入地下水が増加している。そのような状況をご考慮いただけるとありがたい。
- ・マンホールの蓋孔からどれくらいの量が入るか教えていただきたい。